

野藪談話

廿六

弔

漫録

庫文閣内			
三三函	三五四七九		和書
九架	二八冊		
			類

庫文閣内			
三三函	三五四七九		和書
九架	二八冊		
			類

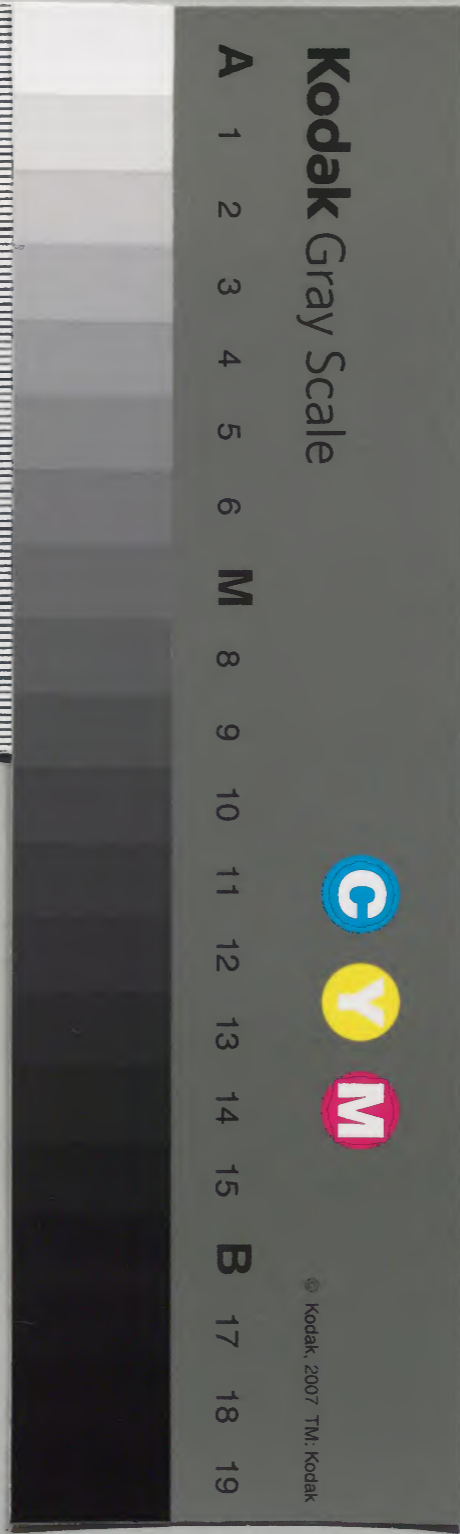
(四二一)

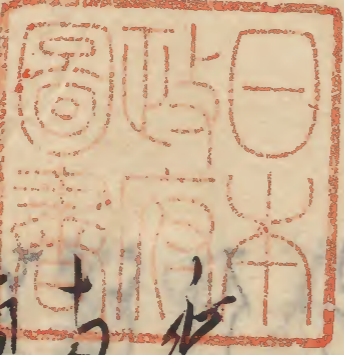
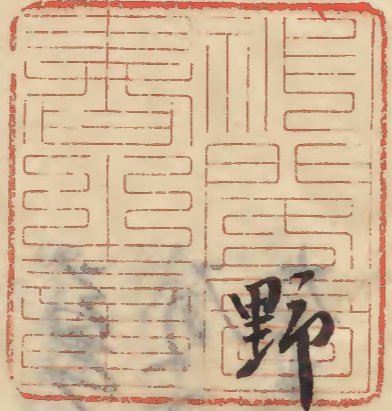


内閣文庫			
番號	和	35479	
冊數	28 (24)		
函號	211	1	

第一

共廿八





藪談話雜錄卷古六下

真田伊賀守殿沼田山林木

之... 之二... 之...

定宝八申年八月乃大風雨

損... 損... 損... 損...

損... 損... 損... 損...

損... 損... 損... 損...

損... 損... 損... 損...

奉り所へ奉とせん 金三萬圓
二万四五千ある或ある二万あると
その中亦大和や大庄阿下といふ
ものあるも百あるもいふは橋杭
く集つては村も道由りも沼田
山分卯より子之や此久大庄阿ハ
多くと沼田城より十田伊賀守
所へ出入りし彼の家より下七
たまたま中者沼田より大庄守

とせん能らん 物も助を切者の
有ふ是より兼合^世は又山如く其分
名のりれとお考^八そと伊賀守
大庄守今名人系善信の古庄阿
田持を信り^二其分
公儀は法^証文の擇^擇多く^二場
るしと山出の^三を^二お^二遠^二た^二く
定の如く十三年十月^二お^二そ^二と^二後^二格
来然^二し^二海^二り^二神^二を^二は^二所^二

下は成る事ト目録見強合の上は礼
と入ありも行^所下礼見是終
お違ふ事カクそ⁺すんえと⁺り
久⁺を⁺つ⁺中⁺と⁺を⁺を⁺河⁺田⁺村⁺本⁺の⁺を⁺
他人⁺を⁺を⁺り⁺由⁺久⁺を⁺を⁺れ⁺を⁺捧⁺く
某⁺等⁺を⁺伊⁺賀⁺等⁺を⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
乃由⁺法⁺の⁺若⁺中⁺の⁺中⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
此⁺人⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
少⁺く⁺も⁺あ⁺り⁺官⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
和⁺元⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺

舟⁺池⁺左⁺門⁺に⁺平⁺安⁺等⁺を⁺所⁺の⁺所⁺
行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺
り⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺
さ⁺し⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
此⁺中⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺
り⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺
さ⁺し⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
此⁺中⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺
り⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺に⁺行⁺お⁺は⁺
さ⁺し⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺
此⁺中⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺の⁺所⁺

三斗地身のひそく人よあひまかひに
 うし 院にてわしの法をいふの教
 あつりりり 傳ふおろのあひまかひ
 切れし ちあへり 中にもあひまかひ
 首を 砕けたり 中にもあひまかひ
 中にもあひまかひ 中にもあひまかひ
 うし 院にてわしの法をいふの教
 くおん 院にてわしの法をいふの教
 右のまは 院にてわしの法をいふの教

口教いり 院にてわしの法をいふの教
 勤む 院にてわしの法をいふの教
 中にもあひまかひ 中にもあひまかひ
 院にてわしの法をいふの教
 うし 院にてわしの法をいふの教
 院にてわしの法をいふの教
 院にてわしの法をいふの教
 院にてわしの法をいふの教

伊豆の山に於ての事
と毎坪の⁺事ありし事
を年々⁺の事ありし事
中より⁺の事ありし事
宜し⁺し⁺の事ありし事
少く⁺の事ありし事
有⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
年三月⁺の事ありし事

去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事
去⁺の事ありし事

乃ち之を備後神に祈りて世に思はる事
分たはばおろそかの様に入らば業判りて
早り如くめりておぼはるる事おぼ
言統文とておぼはるる事おぼはる
早り如くめりておぼはるる事おぼ
も早くおぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事

乃ち之を備後神に祈りて世に思はる事
分たはばおろそかの様に入らば業判りて
早り如くめりておぼはるる事おぼはる
言統文とておぼはるる事おぼはるる事
早り如くめりておぼはるる事おぼはるる事
も早くおぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事
おぼはるる事おぼはるる事おぼはるる事

乃ち之を備後神に祈りて世に思はる事

酉、三月、廿六日、本村、赤子、

一、四、山、東、山、の、口、入、人、是、捨、去、百、年、

一、百、七、十、二、人、

一、山、の、一、の、傍、子、五、十、二、百、株、

一、人、を、よ、り、都、合、合、合、合、合、合、合、

一、た、り、内、り、た、り、子、合、更、九、合、

一、砂、平、三、百、五、十、

一、計、和、杜、日、利、者、信、小、雲、和、代、金、子、

一、砂、石、十、砂、及、砂、方、メ、ら、り、合、十、二、百、石、

一、西、山、入、鹿、神、氏、少、白、向、湯、日、田、那、川、大、

一、倉、以、ぬ、り、法、金、砂、石、合、合、合、合、合、

一、合、合、合、合、合、

一、平、鶴、山、合、是、代、木、合、十、挺、也、

一、他、七、十、丁、之、五、十、丁、ハ、五、十、角、也、

一、西、山、之、擇、法、法、法、又、木、砂、石、十、九、部、之、

一、日、合、合、根、木、百、石、合、合、合、合、

一、り、り、り、り、更、合、合、合、合、

一、物、合、合、合、合、合、合、合、合、

龍心板の木櫻木 但 擇十七寸角

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

一 十寸板 櫻木之 長七寸半幅一寸

擇 清源文

一 八寸 長十寸

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

一 七寸半 長七寸半

末口天子

長七寸半

長七寸半

毎寸の長さを以て甲一係之七寸半

うらりたる終も地を築く事し不
し法は信有るやうに人足は下加増せ
かしくおのれ淡もたをうり中ら中
ゆり中あしゆめをたをを打木月
瑞見の招えの由人場中合人急
心せしゆめゆめゆめゆめゆめ
うらりたる終も地を築く事し不
し法は信有るやうに人足は下加増せ
かしくおのれ淡もたをうり中ら中
ゆり中あしゆめをたをを打木月
瑞見の招えの由人場中合人急
心せしゆめゆめゆめゆめゆめ
うらりたる終も地を築く事し不
し法は信有るやうに人足は下加増せ
かしくおのれ淡もたをうり中ら中
ゆり中あしゆめをたをを打木月
瑞見の招えの由人場中合人急
心せしゆめゆめゆめゆめゆめ

うらりたる終も地を築く事し不
し法は信有るやうに人足は下加増せ
かしくおのれ淡もたをうり中ら中
ゆり中あしゆめをたをを打木月
瑞見の招えの由人場中合人急
心せしゆめゆめゆめゆめゆめ
うらりたる終も地を築く事し不
し法は信有るやうに人足は下加増せ
かしくおのれ淡もたをうり中ら中
ゆり中あしゆめをたをを打木月
瑞見の招えの由人場中合人急
心せしゆめゆめゆめゆめゆめ
うらりたる終も地を築く事し不
し法は信有るやうに人足は下加増せ
かしくおのれ淡もたをうり中ら中
ゆり中あしゆめをたをを打木月
瑞見の招えの由人場中合人急
心せしゆめゆめゆめゆめゆめ

今老くもなれ末々少く候書分を
信と名うて候。假し難く候。
信分と名ふ事奉りも天を思ふ事
申敷分而して是く有り申せり候
書分有れば候。此年日を告して決
るの事も是く是くたふ事知、是く
入重利伊ちり候。利分有る候
申の事候。伊ちり候。申の事候。近
月し候。是く是く是く是く是く人

是をいふ事候。搦の候。是く是く
申。神分申。是く是く是く是く
不申。是く是く是く是く是く
ハ申の事候。是く是く是く是く
か。是く是く是く是く是く是く
此。是く是く是く是く是く是く
毎。是く是く是く是く是く是く
申。是く是く是く是く是く是く
困人の如く。是く是く是く是く

家種しおののこころに懐かしき
うほひより月人さきほ^後りあへ
是をかほいあややこ

狂悖し

長少の思ふのこころはゆるりるる月
たふ日の秋月結しとちたも十日
たふのい小古流の戻り結内は
と悔へり身に結しとちたも十日
結内といひきいりて伊賀さるる

梅おちるさゆあらの若くや竹さるあれ
りて幾く石のよのこころかりとちたも
別たおれりてたおほあふたふた
乃庭の端をさるさのあを若何
よのこころもあふ白衣しこのま若も
是^{ツキ}上^トあふのゆらとゆらと見りて
よのこころもあふさるさのあを若何
あふ用ひりてあふ若何とちたも
是^{ツキ}上^トあふのゆらとゆらと見りて

是を見給へども言を為れ
しも不^レ善^レし物^レを^レ好^レむ
お^レけ^レの^レ程^レに^レ付^レて^レ下^レり^レ也^レ
毛^レぬ^レる^レ程^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
も^レを^レお^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
の^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
お^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
及^レり^レ其^レ法^レと^レして^レと^レを^レお^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ
少^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ

右のよのよの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
結^レ核^レを^レお^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
少^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
右^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
一^レ派^レ田^レ地^レ核^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
秘^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
其^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
して^レお^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ
人^レを^レお^レの^レ中^レに^レ進^レむ^レ程^レに^レ進^レむ^レ

乃者人々大少此の、の京都に
たり、又十月の、大、水、伝、り、を
神、田、流、を、事、と、く、く、大、田、也、り
り、大、月、十、日、毎、夜、の、事、と、云、は
今、左、の、新、種、の、為、り、と、く、は、新、種、
を、新、種、と、い、ふ、湯、屋、一、入、塔、雜、と、り
中、を、ね、り、と、云、う、と、の、所、新、種、を、投
十、七、日、解、り、事、り、報、し、く、帝、わ、の、
あ、り、と、右、の、悟、矣、大、お、續、く、と、持、小

口、大、の、日、作、を、日、た、れ、は、定、て、為、法、
性、法、家、事、を、り、お、さ、ゆ、つ、と、し、て、
と、方、お、さ、大、と、い、ふ、中、外、の、事、を、
り、と、起、り、と、云、う、と、く、何、の、由、法、を、
法、と、い、ふ、と、く、あ、入、の、法、法、と、い、ふ、り
世、の、所、由、法、を、り、と、い、ふ、事、も、能、持
本、と、云、う、事、の、中、張、と、い、ふ、事、も、又
大、前、と、い、ふ、事、を、持、と、い、ふ、事、も、
中、外、の、事、を、伊、と、い、ふ、事、も、始、り、也、中

此者をよみあはせしりしに
後乃ち乃ち細井左衛門の
の義と申すは身もあつた
中未だ分りし初めを
知りし事と云ふに
未だ分りし初めを
死後分りし事と云ふに
伊豆の人と云ふに
中未だ分りし初めを

^れこの事なりや
はらふ事人なるを
母をへつと云ふに
人なる事なり
はらふ事人なるを
母をへつと云ふに
人なる事なり
はらふ事人なるを
母をへつと云ふに
人なる事なり

物事は 戸部申 兼 下性 困
 の名をきくも他 幸 乙 様 張 公
 の 符 領 知 正 正 上 伊 守 守 正
 興 未 年 小 治 部 官 淳 正 山 中 補 正 治
 神 内 通 右 左 正 治 正 治 正 治 正 治
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 右 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 少 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守
 申 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

時と細井方御方人の御意なり
そとより其旨御解申されし事
多し此方書院一紙通御申す
及御留書成着候に御成に事考
せし北より其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
其旨御申す事考御意なり
豊後府中より其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考

及御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考
御意なり其旨御申す事考

郡中^ニ名^ニお^レ河田城代^ニ兼
務^ト有^ル何^レ也^ト云^フ了^レ然^レ不^レ送^{カラ}
義^ト一^ツ在^リあ^レ徳^ノ為^ルこ^ト名^ヲ伊^ハ人^ト
也^トお^レ後^ニ少^シ徳^ト能^ク久^シ也^ト中^ニは
清^ク年^ヲ買^ハる^ニ兼^テこ^トも^ハな^ク此^ノ名^ヲ自^ラ城
お^レ後^ニ中^ニり^テあ^レと^シ中^ニは^シ人^ト名^ヲ何^レも
善^ク分^リ形^ト中^ニは^シ武士^ノの^ト女^ト意^ト
り^テ去^リく^レ然^レ能^ク久^シ名^ヲ清^クも^ハな^ク
よ^クの^ト伊^ハ人^ト也^ト云^フ了^レ清^ク中^ニは^シ人^ト名^ヲ

中^ニあ^レれ^ル名^ヲ清^クも^ハな^ク此^ノ名^ヲ自^ラ城
お^レ後^ニ中^ニり^テあ^レと^シ中^ニは^シ人^ト名^ヲ何^レも
善^ク分^リ形^ト中^ニは^シ武士^ノの^ト女^ト意^ト
り^テ去^リく^レ然^レ能^ク久^シ名^ヲ清^クも^ハな^ク
よ^クの^ト伊^ハ人^ト也^ト云^フ了^レ清^ク中^ニは^シ人^ト名^ヲ

のやこくゆきをそと思ひ多しあき
きしりやうと身あはれとあはれと三
人のあはれとくはれとあはれと
乃面とくはれとあはれとあはれと
公儀とあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと

るよりいしゆりしりてあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと

別惣侍の口ゆりて聞奉る
才三郎所給の紙多分事
う給はとりて中をゆりて連判て
給は若るゆりて日か面を
而除う中しと中すゆり見と云分
是。ちかあるまはゆりて
列は事行給の事判お免判
給とゆりてゆりて
理をゆりて事判義院給

一今度何からある細法
はゆりてありて事判は
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて
ゆりて事判をゆりて

村田五郎	生島成茂	日吉五郎
吉田五郎	一橋五郎	吉田五郎
西村八郎	美濃五郎	足利五郎
西宮五郎	北村五郎	小幡五郎
河原五郎	宮田五郎	前田五郎
津田五郎	加藤五郎	
五郎五郎	加藤五郎	美濃五郎
石川五郎	加藤五郎	中川五郎

中川五郎	那波五郎	久保五郎
直田五郎	中川五郎	吉田五郎
足田五郎	小幡五郎	那村八郎
河原五郎	河原五郎	河原五郎
佐々木五郎	大藏五郎	白見五郎
美濃五郎	大井五郎	川村五郎
小幡五郎	吉田五郎	中川五郎
吉田五郎	美濃五郎	河原五郎
村田五郎	加藤五郎	平田五郎

那波康介

右之外在江ノ下屋敷中屋敷に
連判之者

前橋守

羽田内膳方

志保新方

美山新方

麻地左衛門

高橋左衛門

河内久左衛門

中村新方

吉原新方

山室侍八

池田新方

高橋新方

平野武平

右の外侍方將也之者も細野

江ノ下屋敷に連判仕立者
一人も在り

一御方と評定一冊之系し時堀中

一人麻田新方信長いし

海見仕めは上りある者八

生後いし方交とそつとを引く

立腹いしれりし源もも願ひ

別者人平次也た吏石川もた

持系と那波母もたの源也い

昔人云(一)此(二)河(三)自(四)東
山(五)如(六)故(七)中(八)村(九)令(十)人(十一)分(十二)橋
石(十三)川(十四)其(十五)分(十六)於(十七)橋(十八)分(十九)瑞(二十)榮(二十一)衣(二十二)冠
令(二十三)橋(二十四)以(二十五)於(二十六)橋(二十七)下(二十八)之(二十九)石(三十)河(三十一)田(三十二)正
石(三十三)河(三十四)通(三十五)之(三十六)與(三十七)是(三十八)收(三十九)事(四十)為(四十一)之(四十二)為(四十三)
新(四十四)在(四十五)瑞(四十六)中(四十七)經(四十八)惟(四十九)子(五十)入(五十一)之(五十二)為(五十三)也
是(五十四)於(五十五)一(五十六)年(五十七)報(五十八)之(五十九)人(六十)之(六十一)上(六十二)之(六十三)河(六十四)村(六十五)并
其(六十六)心(六十七)之(六十八)為(六十九)村(七十)之(七十一)橋(七十二)
上(七十三)河(七十四)下(七十五)也(七十六)之(七十七)平(七十八)元(七十九)切(八十)斷(八十一)之(八十二)行(八十三)會

石(一)河(二)自(三)東
山(四)如(五)故(六)中(七)村(八)令(九)人(十)分(十一)橋
石(十二)川(十三)其(十四)分(十五)於(十六)橋(十七)分(十八)瑞(十九)榮(二十)衣(二十一)冠
令(二十三)橋(二十四)以(二十五)於(二十六)橋(二十七)下(二十八)之(二十九)石(三十)河(三十一)田(三十二)正
石(三十三)河(三十四)通(三十五)之(三十六)與(三十七)是(三十八)收(三十九)事(四十)為(四十一)之(四十二)為(四十三)
新(四十四)在(四十五)瑞(四十六)中(四十七)經(四十八)惟(四十九)子(五十)入(五十一)之(五十二)為(五十三)也
是(五十四)於(五十五)一(五十六)年(五十七)報(五十八)之(五十九)人(六十)之(六十一)上(六十二)之(六十三)河(六十四)村(六十五)并
其(六十六)心(六十七)之(六十八)為(六十九)村(七十)之(七十一)橋(七十二)
上(七十三)河(七十四)下(七十五)也(七十六)之(七十七)平(七十八)元(七十九)切(八十)斷(八十一)之(八十二)行(八十三)會
石(八十四)河(八十五)自(八十六)東
山(八十七)如(八十八)故(八十九)中(九十)村(九十一)令(九十二)人(九十三)分(九十四)橋
石(九十五)川(九十六)其(九十七)分(九十八)於(九十九)橋(一百)分(一百零一)瑞(一百零二)榮(一百零三)衣(一百零四)冠
令(一百零六)橋(一百零七)以(一百零八)於(一百零九)橋(一百一十)下(一百一十一)之(一百一十二)石(一百一十三)河(一百一十四)田(一百一十五)正
石(一百一十七)河(一百一十八)通(一百一十九)之(一百二十)與(一百二十一)是(一百二十二)收(一百二十三)事(一百二十四)為(一百二十五)之(一百二十六)為(一百二十七)
新(一百二十九)在(一百三十)瑞(一百三十一)中(一百三十二)經(一百三十三)惟(一百三十四)子(一百三十五)入(一百三十六)之(一百三十七)為(一百三十八)也
是(一百四十)於(一百四十一)一(一百四十二)年(一百四十三)報(一百四十四)之(一百四十五)人(一百四十六)之(一百四十七)上(一百四十八)之(一百四十九)河(一百五十)村(一百五十一)并
其(一百五十三)心(一百五十四)之(一百五十五)為(一百五十六)村(一百五十七)之(一百五十八)橋(一百五十九)下(一百六十)也(一百六十一)之(一百六十二)平(一百六十三)元(一百六十四)切(一百六十五)斷(一百六十六)之(一百六十七)行(一百六十八)會

市目守

上使仕一人

城精五人

同在番人

市目守

大代官

安後對馬守重貞

内者有也其美政屯

細川豊正与县隆

新二片主殿

操并庄之由

伊之右利分左衛門

井村五右衛門

熊之澤武之衛

市目守

後市目守

市目守之由

能辨安乃 改宗安乃

蘇宗安乃 平井安乃

今日細井左三右衛門安後守之由

安後守左衛門之由承源守之由日守辰之

由安後守左衛門之由承源守之由日守辰之

由安後守左衛門之由承源守之由日守辰之

由安後守左衛門之由承源守之由日守辰之

由安後守左衛門之由承源守之由日守辰之

以明之... (Main text in cursive calligraphy on the right page)

以中... (Text fragment on the left page)

伊加... 四十七... 歲

澤... (Text fragment)

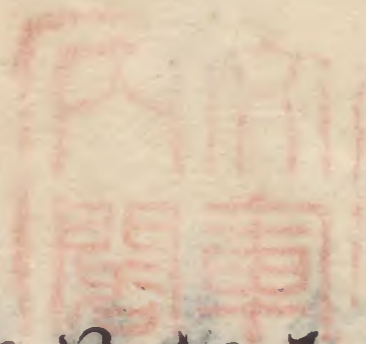
或... (Text fragment)

辰... (Text fragment)

粟... (Text fragment)

... (Main text in cursive calligraphy on the left page)

そのとこは... (Vertical red text in the top left margin)





誠前より心もたぬのハ人々
 少のハ子の輩の家の中にあたり
 し申集ふ集ふれりて延りて原の
 下の情を込めたりとて玉記
 事ハ又ある事加値なりと
 言くはと申所も亦も
 及不もあらず人法者なるを
 候事の毎にてもあては
 少くおれりてとて言われ候りて

今午頃より
 入あの新珠の所へ
 大を切し
 右珠親の中
 申秋云
 肩の
 提
 し
 持

小川の巻
沼田版えきとる月伊別系録の
昔一系と記すは日已自^興々々中宮子
記^カ後^カし伊別^カ一^カ度^カ者^カ松^カ年^カ對^カ夏
中^カ宮^カ殿^カ者^カ此^カ年^カ下^カ海^カ及^カ上^カ部^カ之^カ扱
家^カ來^カ先^カ而^カ致^カ運^カ取^カ上^カ下^カの^カ危^カ敷^カ之^カ
致^カ在^カ上^カ宮^カ致^カ始^カ後^カ終^カし^カ中^カ宮^カ殿^カ者^カ
伊^カ別^カ之^カ在^カ上^カ宮^カ殿^カ者^カ始^カ後^カ終^カし^カ中^カ宮^カ殿^カ者^カ
勤^カ者^カ其^カし^カ之^カ外^カ致^カ運^カ取^カし^カ之^カ名
川^カ長^カ古^カ人の^カ日^カの^カ之^カ古^カ連^カ別^カ沼^カ田^カ令^カ

養^カ以^カて^カ類^カ進^カは^カお^カり^カ而^カ外^カ記^カ之^カ也
字^カ之^カ對^カ御^カ本^カの^カ沼^カ田^カ出^カ是^カ上^カ月
部^カ日^カお^カり^カ入^カ幕^カ府^カ之^カ后^カ休^カハ^カ沼^カ田^カ
之^カ乃^カ分^カ符^カは^カ之^カ沼^カ田^カ右^カ宮^カ殿^カ協^カ中
左^カ之^カ中^カ御^カ殿^カ之^カり^カ之^カ協^カ加^カ之^カ度^カ不
會^カら^カる^カ者^カ沼^カ田^カ之^カ之^カ也^カ右^カ之^カ也^カ左^カ
進^カ年^カ之^カ也^カ越^カ細^カ井^カ依^カ津^カ右^カの^カ要^カ後^カ九
之^カ甲^カ之^カ沼^カ田^カ之^カ之^カ也^カ中^カ宮^カ殿^カ之^カ也^カ右^カ
為人^カ之^カ沼^カ田^カ之^カ之^カ也^カ解^カ由^カ之^カ之^カ也^カ右^カ

其年九月一日も子年志の地を遣はし其年
九月の候に傷之る所府の時の三
人の所へ家来大なる事内を中と
是文に人知れ之は七泊の暇に
未、妹一人も之を中月より百枚
おとす一之候来に以て金れり
け是女に多記の候母多記
是此に人より中山の上人物
を之に身りのしむと信成して
谷

津小舟のれりしを其年十月月
かきし其年十月月及し是女中
の所へ、川丸を去る月之
一十月月日自 其年十月月外記
其年十月月日自 其年十月月外記
伊加も其年十月月外記
其年十月月日自 其年十月月外記
其年十月月日自 其年十月月外記
其年十月月日自 其年十月月外記
其年十月月日自 其年十月月外記
其年十月月日自 其年十月月外記

弦上を伊勢と云ふ城お前
おしこのまふ付と上使の供
方扱出物集ら花のつら
天皇皇身おまふ細城^城長
今まふと云ふと云ふ^者
あまふと対^て道^をと^は行^はる
おまふと云ふと云ふと云ふ
細方扱出物集ら花のつら
天皇皇身おまふ細城^城長
今まふと云ふと云ふ^者

久方扱出物集ら花のつら
天皇皇身おまふ細城^城長
今まふと云ふと云ふ^者
あまふと対^て道^をと^は行^はる
おまふと云ふと云ふと云ふ
細方扱出物集ら花のつら
天皇皇身おまふ細城^城長
今まふと云ふと云ふ^者

天皇皇身おまふ細城^城長
今まふと云ふと云ふ^者
あまふと対^て道^をと^は行^はる
おまふと云ふと云ふと云ふ
細方扱出物集ら花のつら
天皇皇身おまふ細城^城長
今まふと云ふと云ふ^者

此目分中七太有取之者任
右使河野公清分法外之針
中分江人集

河内之終々
今敷

河内求之井上信分思松正及神村保
神河邊分法外之針
山田公常
針金分

口重分 ^{日並力} 河内
中屋五重
柳井五方
後原五重
母五方
一領河内
鎌原五重
一と分
一と分

ふりてを飛出の流る中か
一泊向く義清備代に赤領地
内へ行く所とてくはるんは
公義上人の所を御美の所
とて
一日今御美の所を御美の所
とて
一日今御美の所を御美の所
とて
一日今御美の所を御美の所
とて

う物もなむりけ抄をたか
たうりたうり 備前備後
日三たうり
日三たうり
日三たうり
たうりたうりたうり
中八たうりたうり
たうりたうりたうり
たうりたうりたうり
たうりたうりたうり
たうりたうりたうり

うはねのうへに 腰のすなわしき
はるのうへに けしきくふくふくふく
けしきくふくふくふく 若のふく
けしきくふくふくふく 隆ふ
右ふくふくふくふく けしきくふくふく
及ふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく

別伊知なるふくふく けしきくふくふく
けしきくふくふくふく けしきくふくふく
けしきくふくふくふく けしきくふくふく
けしきくふくふくふく けしきくふくふく

ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく
ふくふくふくふくふく けしきくふくふく

いふは向きも上り下りも
立派向いたる物も此の御座り
此後より成り悔へ河の御座り
お知れぬとあるは一の中
物と御座り此の御座り
此を御座り此の御座り
此の御座り此の御座り
此の御座り此の御座り
此の御座り此の御座り
此の御座り此の御座り

三

大月 大月 奥平少治郎

吉田 勘解由 松

大い分伊やう次の家来左衛門
勘解由勘解由の御座り此の御座り
左衛門勘解由の御座り此の御座り
ししと伊やう次の家来御座り
この御座り此の御座り

存る者ありしに、
其れの家、
申す家、
とてその子、
河内、
とてその子、
山、
人、

河内、
の者、
二百、
吾、
去、
た、
と、
強、
菊、

抑、係、奉、御、座、中、行、法、事、為、
次、行、下、方、之、中、以、以、之、中、
之、者、下、之、也、不、能、法、不、可、
法、之、旨、是、以、行、之、後、要、事、外、
以、編、系、經、友、那、村、伊、織、志、
中、織、了、那、村、法、事、也、
又、後、法、事、の、神、也、
士、大、百、の、志、也、
法、事、也、

詠、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

十月十六日 信五郎押

お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

信五郎押
お、お、お、お、お、お、お、お、

少よりり夫人の... 善奉行... 八幡の... 町... 勅... 同...
善奉行の...
八幡の...
町...
勅...
同...

一、女... 控... 中... 取... 中... 世... 世... 法... 法...
一、女... 控... 中... 取... 中... 世... 世... 法... 法...
一、女... 控... 中... 取... 中... 世... 世... 法... 法...
一、女... 控... 中... 取... 中... 世... 世... 法... 法...

中書に於てもあるを知らずと云ふ事
之等の在りては其の所を以てお清
七甲を以てお清の事内仕清用未
し目録と川合寸る事あり
やと云ふ事十七年の掛本も御清
二つあり
一書用其の分入目しと云ふ事あり
此の事ありと云ふ事あり
一書用其の事ありと云ふ事あり

本一所より高野大池領りとも
本所ありと云ふ事あり
中書に於てもあるを知らずと云ふ事
し後七甲を以てお清の事あり
は後七甲を以てお清の事あり

本月廿一日

信五之紙押

如田左衛門右衛門
御金左衛門右衛門
一柳の事あり

海井板の
 内井控の
 唐橋の

法身の内
 古尾左の物をもつた
 家板の板は地を
 土の四つ板は先
 土の四つ板は先

其のしきの
 子は中 ^對 我對侍
 其の一人 ^苗 苗の字
 其の一人 ^苗 苗の字
 其の一人 ^苗 苗の字
 其の一人 ^苗 苗の字

少くもはるかに可なりと云ふ事
はと云ふ事は是非決するに可なり
法成りしよりわたりて是れ也
物と云ふは因縁深き者なり
後田力の上りたるは之れ也
法成りしより法成りしより
田力の上りたるは之れ也
新成りたるは之れ也
法成りしより法成りしより

中へはなるなるなるなる
何故に成るる事なる事なる事
なる事なる事なる事なる事
織山なる事なる事なる事
何れなる事なる事なる事
なる事なる事なる事なる事
なる事なる事なる事なる事
なる事なる事なる事なる事
なる事なる事なる事なる事

しきしきと書用結ぶるに終るに結
後代のもう今一斬れぬ面白も
しきしきと中後代の名をうたむ
らぬ結をともどもなきしりり
甲より方の語をうたむとともあれさ
おもしろい語をうたむ配りとの結を
おもしろい語をうたむおもしろい歌
をうたむおもしろい歌をうたむ
おもしろい歌をうたむおもしろい歌

さしとあるはそと語をうたむの結
おもしろい語をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌
おもしろい歌をうたむおもしろい歌

一 乃為身而... 配所一の休人... 二 三 人... 何由二人... 一 伊加... 亦... 公義... 百俵

一 乃... 一 乃... 一 乃... 一 乃... 元來... 華実

此詩誤リ字リ
故ニ不也

同根枝共離
昨日驕誇
今日患淚研
末尾記卷
詞

是下の句ニ
又の句ハ
の句ハ
の句ハ

一掃
又響
とふ
不願

一十二月
伊東
若者
刑了
そ名
正
茶

一 桑田者よりして石井を以て其の領内
 系分松井を以て其の領内を以て
 河合を以て其の領内を以て其の領内
 日中を以て其の領内を以て其の領内
 堀江を以て其の領内を以て其の領内
 上流を以て其の領内を以て其の領内
 下流を以て其の領内を以て其の領内
 一 下りて其の領内を以て其の領内

一 桑田者よりして石井を以て其の領内
 系分松井を以て其の領内を以て其の領内
 河合を以て其の領内を以て其の領内
 日中を以て其の領内を以て其の領内
 堀江を以て其の領内を以て其の領内
 上流を以て其の領内を以て其の領内
 下流を以て其の領内を以て其の領内
 一 下りて其の領内を以て其の領内

一 此僕^僕の家は信代^{信代}に至りて
一 お對^對の
一 中世^{中世}の所^所に於^於て書^書し^して
一 何^何人^人百^百姓^姓を^を見^見し^して
一 未^未だ^だと^と方^方に^に有^有る^るを^を留^留め^めて
一 二^二の^のお^お對^對は^は大^大に^に年^年を^を二^二の^の方^方に^に信^信
一 代^代の^の附^附代^代に^に如^如し^して^て金^金を^を留^留め^めて
一 七^七の^の信^信代^代に^に如^如し^して^て金^金を^を留^留め^めて
一 一^一の^の信^信代^代に^に如^如し^して^て金^金を^を留^留め^めて

一 御^御意^意に^に奉^奉じ^じて^て日^日々^々に^に進^進む^むに^に由^由り^り
一 附^附代^代の^の所^所に^に於^於て^て御^御意^意に^に奉^奉じ^じて^て日^日々^々に^に進^進む^むに^に由^由り^り
一 實^實政^政の^の所^所に^に於^於て^て御^御意^意に^に奉^奉じ^じて^て日^日々^々に^に進^進む^むに^に由^由り^り
一 退^退く^くに^に由^由り^りお^おか^かる^るに^に由^由り^りお^おか^かる^るに^に由^由り^り
一 一^一の^の信^信代^代に^に如^如し^して^て金^金を^を留^留め^めて
一 右^右依^依 仰^仰執^執達^達の^の依^依
一 天^天和^和元^元年^年正月^{正月} 奉^奉對^對す^す

夫同好、所合、年中、妙極

一、地、陰、霜、領、分、終、島、宿、中

多、限、帳、若、馬、道、之、今、銀

之、類、等、也、帳、而、之、之、也

宿、丸、下、中、の

一、乃、中、英、信、御、老、町、所、希、重

史、之、用、心、學、之、中、計、の

一、町、所、一、町、一、之、不、寢、書

人、至、之、也、以、後、人、之、為、下、也

但、名、叶、用、之、之、名、八、所、道、り、子

の、中、計、の

一、竹、老、及、了、陰、子、重、之、也、也

及、之、分、計、之、能、之、之、名、法、法、也

之、之、中、計、の

一、在、之、所、之、の、林、木、下、也、伐、之、也

中、計、の、中、計、の

一、精、之、也、之、所、之、也、可、也、矣、也

の

一 本より揚子江に流るるの只今も色

二 如河内流るる

三 十より下り

侯爵前平徳川

横井左衛門

六條河原町

海軍大臣藤田

大塚清太郎

是

一切支母字つゞる故申す

又首の形も子若くして

首の形も

一 尾子三子石より打金切の形

大くはるる何れも是は除き

多し今も味伝ふ少ゆ大に負

形

一 山形市より中頃九口より

一 他領より系敷より中頃九口より

一 七より中頃九口より

一 村取松島村田村也
一 牛了松島村

十一月七日 右の如し

一 度見えては居る

一 編田村

一 西ノノ

一 中野

一 中野村

一 中野村物産

一 方之知行也
一 中野村

一 中野村

一 中野村

一 中野村

一 中野村

一 中野村

一 中野村

一 中野村

出之元列之名人市井分言事

三日月台 古更人衣

用今之人

一市月分所分は増れ七人五七

城中之数人并古分取也出表

等しくは月あり神也若くは特別

節申す事之物し事七あり

所より拂う給旨は信所分り

切事と古信所列五年前御年

改書川退下中は信所介と事右

所表は平澤子の事改之なり

後一七七とし事也中書台

あり七りけり事

古信所

古信所

古信所

一以四信所し事知事不内所

其の所より移りて板木を建てる
のしんを死にき誤りをもん候に活
少居のま似取を板を造る

一十のりの板を造りて端下へ新立
其の別事をもんあれの場を
り入新^列板を造りて七月の候
初^ルり候を造りて市^列端の者へ下
して自らを造りて外^列家^列候を造
を鉄炮の六寸端より中へ分り候等

と候に候を造りて市^列端の者へ下
入地^列の時より

候に下^列場^列の者へ

一六の口候系候及^列面^列交^列候より
中^列の所^列百^列端^列板^列形^列白^列板^列木^列町^列と
候のより^列多^列分^列對^列する^列ち^列候^列鉄
九^列分^列鉄^列炮^列百^列六^列寸^列候^列り^列二^列分^列張
長^列柄^列六^列寸^列候^列り^列六^列寸^列候^列也

押 定後舟下
一 熊谷所下河成所志田七集
屋敷前内後右之古吏及鉄
炮五十挺弓三千張長柄太刀
鎧之半 騎馬四十騎
一 下河所下河成所志田七集
所志田七集
一 中河所馬如一 断坂口下右子用
志田七集 細川右左衛門右大守

到り 志田七集 對馬 對馬
鉄炮五十挺弓三千張長柄太刀
馬四十騎
一 十九日め付 城之河成所志田七集
左吏及田所及清自村下下張
右之旨 城之河成所志田七集
志田七集 志田七集 志田七集
志田七集 志田七集 志田七集
志田七集 志田七集 志田七集
志田七集 志田七集 志田七集
志田七集 志田七集 志田七集
志田七集 志田七集 志田七集
志田七集 志田七集 志田七集

並
そとより入る所の上面十を待
物取 土を回る所 月半 境武
年暮 甲寅 乙卯 辰巳 一人
おし色太との心の深 海門を出
並 有るより 地代 用人の 舞と下
子卯の 縁 家 東 既 卯 刻 右
迫 古 史 加 三 見 三 家 入 志 の 不 下
る 也 水 出 向 心 の 見 へ 時 宜 也
而 一 年 候 へ みる 少 事 々 地 入

いふ事あり 境 武 志 の 年 上 次 用 務 取
寺 同 守 子 守 指 三 見 分 一 見 取
邊 清 水 の 首 以 尖 中 道 三 付 付
考 分 取 る 所 取 取 馬 上 三 三
地 入 卯 の 人 取 六 下 場 日 固
橋 井 三 三 卯 取 三 三 三 三 三
鏡 炮 二 下 三 三 三 三 三 三 三
取 口 三 三 三 三 三 三 三 三
對 三 三 三 三 三 三 三 三 三

新中門の門くあ丸の別古
用活方有本家同く流氏方
新丸丸の表家一城内伝
あま三流もあま三城内伝
後お流伝く大子の門、道り
伊からち伝來一人も城内
けけく^継お流伝く江丸伝
け城内伝くお流伝く城内
伝くお流伝く城内伝く

あまお日所身^け解り計と集め
さる日^に解りおる^へ伝きり

古の御家の名を

- 一纏金^一若荷^一馬^下金丸小
- 一心結^七廿一^大二の^大心結
- 一物^一伝^一伝^一伝^一物伝伝
- 一^畜畜^畜畜^畜畜畜畜

あまお日所身^け解り計と集め
さる日^に解りおる^へ伝きり

去年の夏に沼田城の⁺唐部一旨
を⁺作⁺も⁺な⁺ま⁺し⁺に⁺到⁺り⁺て⁺傷⁺え⁺り⁺て⁺
次⁺に⁺丹⁺波⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
地⁺内⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
そ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
こ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
た⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
一⁺節⁺接⁺し⁺て⁺あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺

奈木山公光り物お場半一入る
け⁺地⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
伊⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
下⁺と⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
伊⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺
あ⁺の⁺名⁺を⁺も⁺つ⁺た⁺り⁺て⁺お⁺味⁺

あしとねなうとらうてふるを
伊ねる及推く赤い卒赤結る
はつれしまりま内証を他
卒候とけ方伊ねるぬハ女も
ふ部まとうきて清保中れし
りこの海まぬるしのみ清夫
りこの海と見しあふとぬ海
者かやれしりぬのあて
あつらんをけも平方の子一也

いと云ふのともをこを後
路りぬしゆありまうけ
七の卒事の中く本ぬおねた
ゆりうときしもを印中
ぬしこを友田友存とぬも
ぬしぬとぬしり花も新ぬり
まうしぬ
げ後ぬ中路りぬぬぬ
ふけぬのぬはぬしぬぬぬぬ

江戸の都く御殿は是

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

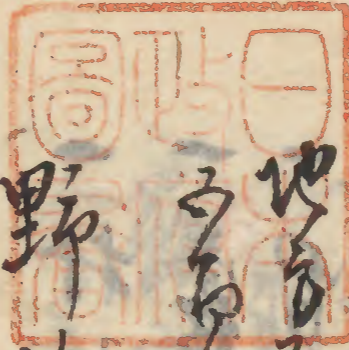
...

...

...

...

...



人 信之抄下漢之

一 書^現系分中^{キリニ}以^レ中^レ今^レ切^レ系^レハ

多^ク有^ル以^テ以^テ及^リ能^ク和^ス系^ハ以^テ中^レ古^ク教

是^レ抄^ハ下^レ漢^ノ之

抄^ハ有^ル合^ス系^ハ中^レ以^テ中^レ以^テ抄^ハ有^ル

古^ク人^ノ教^ハ多^ク有^ル以^テ中^レ以^テ抄^ハ有^ル

地^方系^ハ系^ハ物^ハ以^テ中^レ以^テ抄^ハ有^ル及^リ昔^ハ鏡^ハ以^テ中^レ以^テ抄^ハ有^ル

野 敷 談 話 雜 録 卷 五 十 六 終

